

おり、乳剤の使用である。当然のことながら、ベトナムのように大量散布はしない。

なお、アメリカでは防火線、高圧線の保全にも利用されている。

以上のように、使用法に根本的な違いがある

ものの、除草剤の航空散布問題は今後環境に及ぼす影響をより重要視しなければならない。各分野の関係者が、実態を十分に検討し、審議をつくした上で実施されることが望ましい。

花粉公害雑草防除編

ブタクサ・クワモドキ・ブタクサモドキ に卓効ある除草剤

① ATA (ウィータゾール)

有効成分は、3-アミノ-1,2,4-トリアゾールである。本剤は、非ホルモン型、移行型除草剤である。茎葉から吸収され、植物体内を上下に移行して枯殺する。この浸透移行性は大きく、多年生雑草に処理した場合、根の深くまで移行してこれを枯らすばかりか、地下茎を通して、隣の株の地上部まで移行してゆき、これをも枯殺する。殺草効果は5～6日で現われ、茎葉が白く脱色して枯れる。本剤は、とくに広葉雑草に対し、強い殺草性を現わす。人畜や魚貝毒性はない。

使用法；ウィータゾール(90%)は、10a当たり300～500gを70～120ℓの水にうすめ、展着剤を加用して散布する。

② DCMU・ATA (ボミカル、アプレックス)

有効成分は、DCMU；3-(3,4-ジクロルフェニル)-1,1-ジメチル尿素、ATA；3-アミノ-1,2,4-トリアゾールで、混合剤である。本剤は、非ホルモン移行型の除草剤で、広葉・イネ科雑草の1年生、多年生を問わず、強い殺草性を現わす。とくに広葉雑草に対しては、すぐれた効果を発揮する。処理時期は、雑草の生育期で、草丈が60cm以下のとき、茎葉

および土壤に処理する。

使用法；アプレックス、ボミカル水和剤(ATA35%・DCMU35%)は、10a当たり400～600gを水150～200ℓに溶かし、展着剤を加用し、雑草および土壤表面がぬれるように散布する。

③ その他、有効な茎葉処理剤として、塩素酸塩、2,4,5-T(ウィードン)、塩素酸塩・弗化ナトリウム(クロレートFE)などがある。

茎葉・土壤処理剤としては、2,4-P.A・ATA・D.P.A(キルジンS)、ATA・アトラジン(ドマトール)などが有効である。

なお、実用化の判定受け、目下、登録申請中の薬剤で、M&B9057除草剤(試験名)がある。この薬剤の有効成分は、メチル-4-アミノベンゼンスルホニルカーバメイトである。この薬剤は、非ホルモン型の吸収移行型除草剤で、雑草の発生前から生育期に、土壤処理または茎葉処理することにより、極めて強い殺草効果を示す。所用量は、10a当たり製品量で500～600gを、これら雑草の発芽、展葉時に1～2回散布する。